



発行元：(株)道新販売センター 青葉中央販売所
〒004-0021 厚別区青葉町6丁目1-33 ☎0120-881-365 FAX891-3486
営業時間 平日：9時～19時 日祭日：9時～12時

2020/ 8/5
水曜日

厚別ブラ歩き #35 ひばりが丘⑧ 街角の風景から土地の記憶をたどる

本連載ではひばりが丘地区の歴史を、阿部仁太郎という人物に焦点を当てて振り返ってきました。ひばりが丘は1950年代後半(昭和30年代前半)、市営住宅団地ができて付けられた名前です。一方、仁太郎親子(二代目も仁太郎を襲名)が足跡を遺したのは明治から昭和戦前期であり、当時は白石村旭町と呼ばれていました。1950(昭和25)年、白石村が札幌市に編入されたのちは厚別町旭町となります。現在の町名は厚別中央であり、ひばりが丘も旭町も行政地名ではありません。それでも、厚別中央の国道12号沿いにはひばりが丘や旭町を冠した建物が混在しています。「ひばりが丘交番」は以前「厚別旭交番」でしたが、名前が変わりました。今後、このあたりはどのように呼び慣わされていくのでしょうか。

さて、阿部仁太郎の事績をたどることとなったきっかけは、国道沿いのビル屋上に祀られている小さな祠です。この祠が仁太郎にゆかりがあることを私は推理しました。根拠は以下の5つです。

- ①ビルが建つ前からこの場所にあったと伝えられている。
- ②祠は「猿賀神社」と称されている。
- ③阿部仁太郎が祀った豊平神社も、祭神は猿賀神社から分祠された。
- ④猿賀神社は仁太郎の先祖の出身地である。
- ⑤現在も豊平神社の宮司が来て、お祓いをしている。

ところで、本連載#29でお伝えしたように旭町にはもともと「旭町神社」がありました。この神社も仁太郎が奉斎したもので、やはり猿賀神社の祭神が祀られていました。しかし、1944(昭和19)年に信濃神社に合祀されています。そうすると、この地域には仁太郎が祀った神社が二つあったことになります。

右図は、1959(昭和34)年発行2万5千分の1地形図「札幌東部」からの抜粋です。1954(昭和29)年に測量されたこの地図で、旭町に神社の記号が記されています。阿部仁太郎がかつて土地を持っていたあたりで、昭和戦前期の地形図に載っている神社の位置とほぼ同じです。現在祠が祀られているビルのすぐ近くでもあります。阿部家は1970(昭和40)年まで旭町にお住まいでした。ご子孫のお話では敷地に小さな社祠を設けていたそうです。結論的に言うと、1944年に信濃神社に合祀された神社とは別に、阿部家の神社がこんにちまで引き継がれたと私は考えます。

2017(平成29)年10月以来3年近くにわたって続けてきた「厚別ブラ歩き」は、今回で終わりです。これまでお読みくださった皆様、連載にご協力くださった皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。私がこの連載で取り上げたかったのは、普段何気なく見過ごしている街角の風景です。先達の記録や回想、史料などと照らし合わせることで、人びとが積み重ねてきた営みや土地の成り立ちが見えてきました。その醍醐味を、これからもさまざまな機会でお伝えしていきたいと思っております。

(地域史研究者 杉浦正人)



1959(昭和34)年発行地形図「札幌東部」から
赤い○で囲ったところに神社の記号が付けられている

*参考文献 札幌市厚別区編『あつべつ区再考』1994年、厚別中央歴史の会ほか編『厚別黎明期の群像』2013年、関秀志編『札幌の地名がわかる本』2018年
*筆者個人ブログでは、札幌の街をあちこち訪ねて時間・空間・人間を楽しんでいます。ご覧ください。
札幌時空逍遥(さっぽろじくしょうよう) <http://keystonesapporo.blog.fc2.com/>

道新 青葉中央販売所は献血活動を応援しています

命を救うボランティアみんなで献血へ行こう！



★みなさまの血液は、誰かのいのちに繋がります★
～ A型・O型・AB型の不足に非常に困っています～

～新さっぽろ献血ルームのご案内～

- ◆厚別中央2-5 Duo(デュオ) 地下1階
- ◆受付時間 ①10:00～13:00 ②14:00～18:00

★休憩スペースにはクッキーなどお菓子をご用意しております。
また、キッズスペースも充実！安心して献血いただけます。

